

【地域ごとのまちづくり計画】「対話」「進捗管理」の仕組みにかかるアンケート（令和4年度実施）結果について

令和5年3月に実施しました標記アンケートについては、回答にご協力いただきありがとうございました。
アンケート結果及びご意見に対する市民協働推進課の考え方について、以下のとおりとりまとめたので、ご覧ください。

なお、仕組みについては、運用を進める中で気づいたことなどについて随時、まちづくり協議会代表者交流会や庁内での意見交換も実施し、必要な修正を行いながら、運用を進めていくこととしています。

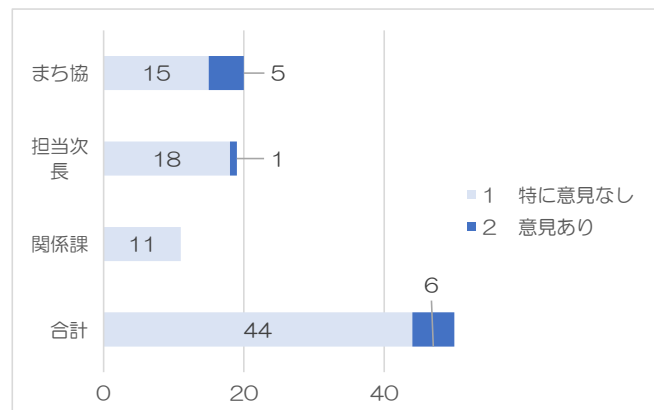
Q1：【「対話」の仕組みについて】

「推進シート」や「対話シート」の作成、推進シート提出から対話に至るまでの調整など「対話」に係ることについて、ご意見はありますか。

以下1～2の選択肢から選び、ご記入ください。また、「2：意見あり」を選択した場合、以下の「ご意見記入欄」にご意見の内容をご記入ください。

（1：特に意見なし、2：意見あり）

Q1	1 特に意見なし	2 意見あり
まち協	15	5
担当次長	18	1
関係課	11	0
合計	44	6



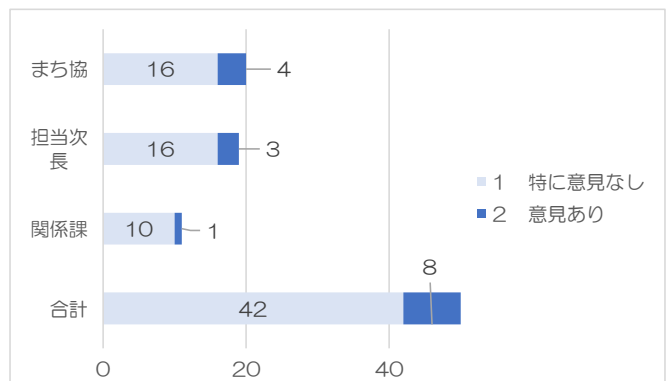
Q2：【「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について】

「推進シート」や「対話シート」の作成、推進シート提出から対話に至るまでの調整など「対話」について、「協働の取組推進担当次長」の関わり方について、ご意見はありますか。

以下1～2の選択肢から選び、ご記入ください。また、「2：意見あり」を選択した場合、以下の「ご意見記入欄」にご意見の内容をご記入ください。

（1：特に意見なし、2：意見あり）

Q2	1 特に意見なし	2 意見あり
まち協	16	4
担当次長	16	3
関係課	10	1
合計	42	8



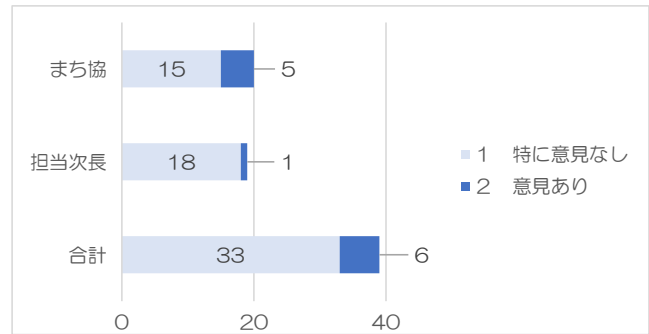
Q3：【「進捗管理」の仕組みについて】

「進捗確認シート」の作成など、進捗管理に係ることについて、ご意見はありますでしょうか。

以下1～2の選択肢から選び、ご記入ください。また、「2：意見あり」を選択した場合、以下の「ご意見記入欄」にご意見の内容をご記入ください。

(1：特に意見なし、2：意見あり)

Q3	1 特に意見なし	2 意見あり
まち協	15	5
担当次長	18	1
合計	33	6



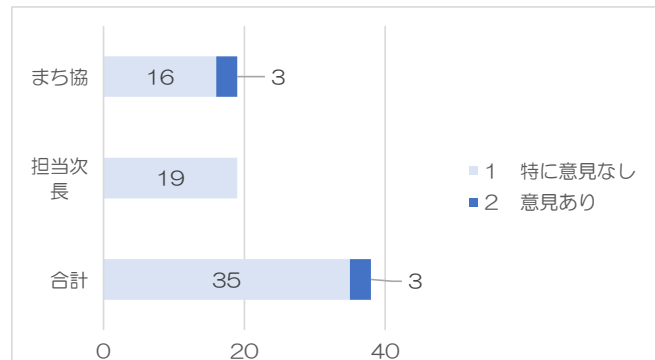
Q4：【「進捗管理」への協働の取組推進担当次長の関わり方について】

進捗管理の話し合いの場への出席などについて、「協働の取組推進担当次長」の関わり方について、ご意見はありますでしょうか。

以下1～2の選択肢から選び、ご記入ください。また、「2：意見あり」を選択した場合、以下の「ご意見記入欄」にご意見の内容をご記入ください。

(1：特に意見なし、2：意見あり)

Q4	1 特に意見なし	2 意見あり
まち協	16	3
担当次長	19	0
合計	35	3



別紙：ご意見の内容及び市民協働推進課の考え方

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
1	Q1「対話」の仕組みについて	まちづくり協議会	この対話シートや推進シートの手続きが、煩雑で、事務局の作業に負担がある。まず、日程調整のシートを出し、内容の打ち合わせを進めるが、結局は、担当者で連絡して決定していく。シートを改めて提出しないと、動いてもらえない。流れをもう少し簡略化して、負担を減らしてほしい。 まちづくり計画書の見直しなどは、常にするべきだと思うが、コミュニティ活動で、手一杯の所がある。簡単な事務処理のような関りではなく、もっと住民に寄り添った形を模索してほしい。	「推進シート」は、新たに対話を進めていく取り組みについて、関係課が分からない場合などに担当次長が仲介役となって対話の場につなげることや、担当次長から助言や支援を受けることができるなどの利点があることから、積極的に活用いただくことを推奨しています。また、一度推進シートをご提出いただいた取り組みについては、再提出は不要です。既に行政と対話や協働を実践している取り組みや、新たな取り組みであっても、行政に求める協働の役割が「助言、制度説明」等の比較的軽易なものであれば推進シートを使わずに対話を進めていただいても問題ありません。判断に迷われる場合は、随時、担当次長又は市民協働推進課にご相談ください。
2	Q1「対話」の仕組みについて	まちづくり協議会	2023年度に着手しましたテーマ「事務所の空きスペースや空き家を活用した地域の集いの場の検討」では直感的にアピアⅢ地区が対象と考えました。しかし、現状は無償で集いの場を提供するような環境にありませんでした。アピアⅠ地区も同様な環境に有ります。一般管理費が高価なため閉店する店舗が増えています。このような状況にありますので、他の方法や地域で該当するところを検討したいと考えます。ご指導をお願いします。	状況に応じて改めて対話の場を調整することも可能ですので、ご検討を進めていく中で必要であれば、随時、担当次長又は市民協働推進課にご相談ください。
3	Q1「対話」の仕組みについて	まちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・当まち協は書面で「推進シート」を基本的には提出せずに地域課題などの問題や懸案事項、依頼事項については直接担当部課に申入れています。 ・その方がスピーディに諸問題が解決の方向に導くことができますし、情報の共有化と正確な提供ができるからです。 ・当まち協の各部会長は関連する市の担当課との接点を持っており、直接交渉によることで問題提起や解決の時間が大幅に短縮できています。 ・また、各部課との案件や依頼事項については、出来る限り市民協働推進課、担当次長にはフィードバックするように心がけています。 ・まち協活動の効率化を考えるならば、書面を媒介とせずメール、架電、面談など関係する部課との直接交渉の方が時間効率が高らかに良いと思われれます。 	「推進シート」は、あくまで地域ごとのまちづくり計画を推進していくための一つのツールです。貴会のように直接関係課との協働を進めていただく方法でも差し支えはございません。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
4	Q1「対話」の仕組みについて	まちづくり協議会	<p>行政が推進シートで対応することを提案されるから、対応はしています。しかし、行政、会社と異なり、当コミュニティには、そんなに人材はいません。中長期計画を作成、それを決め細かく進捗管理を下さい、と言われても無理やりやっている感じがします。諸活動は地域のためにやっています、市に報告するためにやっているわけではありませんが、どうも、その辺りがすっきりしていません。正直、適当に書いて、提出しておけば、という部分も結構あります。市は報告を受けると全体像が把握できる、管理しやすい。では、市は、コミュニティに何をしてくれる？すみません。それを余り感じません。街路樹の伐採、道路、上下水道の補修、防災訓練の助言など市にお世話になることは多い。その辺りは親切に対応してもらっている。しかし、まちづくりに関し、宝塚市をどういうまちにするのか、そのコンセプトが今ひとつ分からない。市と住民が一体になり、こういうまちづくりを目指そうというものがない。昔、仕事で産業観光を目指す地方都市を取材に回ったことがあります。どこも市と商工会議所、産地組合、農業組合、住民の思いが一つにまとまっていた。市がまとめていた。宝塚市は“宝塚歌劇”におんぶと抱っこ！。目標は市民レベルで分かりやすく、明確に。スローガンがあった方がよいのでは。その辺りが問題では。</p> <p>◎ただ、推進シートは記録になるのかもしれない。市役所にとっては市の全体像、個々のまち協の進捗状況が把握できますね。したがって、進捗シートを止めたらとは言いません。しかし、面倒です。各まち協には総会があります。総会では一年間の総括、次年度の計画を作ります。各まち協の総会資料に進捗状況を入れるようにすれば一度で済みます。市のスケジュールではなく、各まち協のスケジュールに合ったタイミングも考えていかがですか。</p> <p>◎今後、出来れば各まち協が進めている方向、特徴、このまち協は、ここが進んでいる。遅れている。このまち協は何を目指しているのか、といったことを、まとめて教えてもらえば参考になると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では、市の最上位の計画で令和3年度(2021年度)から10年間を取組期間とする「第6次宝塚市総合計画」を策定しており、地域課題や市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりを更に進めるため、この総合計画に「地域ごとのまちづくり計画」の「地域(まち)の将来像」と「基本目標」を位置付けています。この計画に沿って、市民と行政の協働でまちづくりを進めているところです。 ・地域ごとのまちづくり計画は、市民の方自らが地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、目標や具体的な取組等を取りまとめた計画であるため、市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりの推進のためには、進捗管理においても、市民の皆様視点で見た現状に基づいて評価していただくことが必要であると考えています。ご理解ご協力をお願いいたします。 ・進捗確認シートの提出スケジュールにつきましては、ご意見を踏まえ、検討いたします。 ・各まち協の目指す方向性等については、地域ごとのまちづくり計画の中に「地域(まち)の将来像」や「基本目標」として位置付けられていますので、是非ご覧ください。また、代表者交流会の場においても引き続き、各まち協同士の情報交換を図ってまいります。
5	Q1「対話」の仕組みについて	まちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急課題、難しい課題では対話方式で課題を検討するやり方では追いつかない。 ・PDCAのサイクルが長すぎる。きずなづくり補助金で事業を推進する場合、1週間単位で計画を見直して進めていました。民間企業ではこれが普通です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の修繕や公園の樹木剪定等、課題の内容や範囲が明らかですぐに対応可能な取り組みは、必要に応じて対話を省略し書面のみで対応する等の工夫を行っています。課題が複雑で解決が難しい取組については、市民と行政の両者がお互いに出ることを提案し合いながら、少しでも「地域(まち)の将来像」及び「基本目標」の実現につながるように、対話を重ねていくことが大切だと考えており、一定の時間を要する場合もあると考えています。今後も皆様と意見交換をしながら、よりよい仕組みとなるよう検討してまいります。 ・「対話」「進捗管理」の仕組みにおいては、年単位でのPDCAを記載していますが、ご意見のとおり、課題や取り組み内容に応じて、より効果的な手法を選択いただくことが望ましいと考えています。

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
6	Q1「対話」の仕組みについて	協働の取組推進担当次長	「対話の内容」については、道路反射鏡設置の要望や荒地西山線の調整、資源ごみの窃盗問題など、単純な申請方法に係るもの、地元住民と十分な調整が必要なものや何十年も同じ説明をし続けているものなど、本来であれば各部局での広報や対応を改めたほうが効率良いと思われるものもあります。もちろん、市民が行政に聞きたい、要望をしたと思ったときに入り口が多くあるほうがよいことは否定しませんが、今後、回を追うごとに成熟したものになってくるのでしょうか。	ご意見のとおり、これまで実施してきた対話の中には様々な内容のものがあり、課題の内容や範囲が明らかですぐに対応が可能な取り組みは、必要に応じて対話を省略し書面のみで対応する等の工夫を行っています。今後も皆様と意見交換をしながら、よりよい仕組みとなるよう検討してまいります。
7	Q1「対話」の仕組みについて	関係課	「対話」については、一定規模における地域や市民の集約された意見やニーズに直接触れる機会として大変よいものであると感じています。地域の課題解決に向けた取組が市の施策の方向性と異なる場合の調整が大変かと思いますが、分裂することなく地域と行政が歩み寄り、よりよいまちづくりにつながるよう取り組んでいきたいと思ひます。	ご意見のとおり、市民と行政で調整が必要な課題もあるかと存じますが、「地域ごとのまちづくり計画」を市民と行政の協働で推進していくためには、まずはお互いの信頼関係を構築していくことが大切であり、そのためには、両者が「対話」を通じて想いや考えを共有し合うことが基本となると考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
8	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	これまでの市の対応は窓口開始だったわけで、それは決定に至るまで長期のタイムロスがストレスであったといえるが、次長クラスの同席や関りによって方向性の模索や直の意見が可・否のいずれであったとしても意見の共有ができるのは良い取り組みだとつくづく思える。	「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方についてご評価いただき、ありがとうございます。今後も対話が円滑に行われるよう、担当次長と市民協働推進課で連携しながら取り組んでまいります。
9	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	取り組み推進担当次長には、担当部署との調整など、速やかに動いていただき、ありがたいと思う。ただ、流れを忠実に進めることが、優先されていて、本当に行政との協働に繋がっているのかわからない。	「対話」が形だけでなく、市民と行政の双方にとって有意義なものとなるよう、引き続き担当次長と市民協働推進課が連携し、取り組んで参ります。

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
10	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	<p>当コミュニティは何か問題があれば、これは市のどの部署に連絡する、相談するかは、ほぼ分かっており、それぞれ個別に対応しています。</p> <p>例えば、災害対策なら総合防災課、東消防署・出張所に来ていただき、地区防災計画づくり、防災資機材保管、防災勉強会などをおこなっています。福祉関係なら、定期的に「見守り会議」を開催、地域福祉課、社協、包括支援センター、宝塚市医師会、福祉施設、NPO、コープこうべ、郵便局、銀行などの方達と情報交換しています。</p> <p>学校統合問題、今後の課題になる小中一貫校対応などは教育委員会と対応しています。</p> <p>道路、街路樹、公園、上下水道問題などは各自治会が対応しています。各自治会が連携してお願いすることもあります。市議会議員さんをお願いすることも少ないです。</p> <p>◎毎月、開催するコミュニティ運営委員会に取組推進担当次長さんに参加していただいたことはありました。しかし、ほとんど、ご発言、ご助言をいただくことはありませんでした。現在の室長には、ご出席いただいたことはありませんでした。大変申しわけなく思っています。</p> <p>◎これは、当地域には大きな課題、計画がないからかも知れません。しかし、大きな課題・計画として、市に当地域への新たな商業施設誘致、公立幼稚園の設置を求めても無理ですね。交通インフラでバスの増便を願いますが、市が対応されることはないので、こちらから阪急バスとの交渉を求めました(ここ数年、2回あります)。</p> <p>◎担当次長さんの参加は何の問題はありません。しかし、ご発言の機会がなく、参加していただくのは申し訳ないと思っており、どうすればよいか、困っています。市民協働からのご助言があればよろしく願います。また、当コミュニティでは毎月第2土曜日の運営委員会(福祉、子供、文化、環境緑化などの活動部で構成)には市民協働推進課のご担当に参加してもらっています。翌日の第3日曜日に開催する自治会長達で構成する会議(常任評議会)に出てもらっていません。これでいいのか、悩んでいます。</p>	<p>関係課をはじめ、様々な団体や関係機関とも直接つながり、まちづくりを進めていただきありがとうございます。</p> <p>現在の仕組みにおいて、担当次長の役割は、市民と行政が「対話」を進める取組について、地域と関係課へ、取組の実施や課題解決のための助言や支援を行うこと、また、まちづくり協議会が実施する計画の進捗管理を行うための会議へ出席し、取組の実施や課題を解決する観点から助言や支援を行うことです。今後、行政との「対話」を検討する際や、「進捗管理」のための話し合いの場を設ける際は、是非、担当次長へお声かけください。</p> <p>また、地域担当職員は月に1回を基本として、各まちづくり協議会の定例会に出席させていただいています。出席する会議の変更を希望される場合は、市民協働推進課地域担当職員にご相談ください。</p>
11	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	<p>・担当次長のお陰で、関連部署の担当者を集めていただきましたが、縦組織の壁は越えることができないと感じました。</p> <p>・きずきの森の駐車場、内部の道路、旧伊藤忠独身寮の問題解決には、教育委員会、公園河川課、下水道課がそれぞれの組織の主張をしている現在の状況では課題解決は無理だと思います。解決方法は、トップダウンしかないでしょう。</p>	<p>課題が複雑で解決が難しい取組については、市民と行政の両者がお互いに来ることを提案し合いながら、少しでも「地域(まち)の将来像」及び「基本目標」の実現につながるように、対話を重ねていくことが大切だと考えています。必要に応じて担当次長に是非ご相談ください。</p>

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
12	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	協働の取組推進担当次長	複数の部署にまたがる内容のものが多く思う。案件によっては担当課同志でまとまらない場合も想定されるが、その進路調整が難しいと思う。所管次長の協力もいただければ助かる。	これまで実施してきた対話の中には、所管室長と連携して対話を進めているケースもあります。どのような進め方がよいかは「具体的な取り組み」の内容に応じて様々ですので、随時、担当次長と市民協働推進課が連携しながら、柔軟に検討していきたいと考えています。
13	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	協働の取組推進担当次長	本まちづくり協議会においては、毎月まちづくり計画についての会議が開催され、そこには国会議員や市議会議員が出席し、地域からも市職員が毎月出席することを求められている。個人的には、室長であり、課長事務取扱でもあるので、休日のイベント開催も多く、毎月出席するのがしんどかったです。	まちづくり協議会によって「対話」や「進捗管理」の頻度も異なり、協働の取組推進担当次長の業務量に差が生じていることを認識しております。協働の取組推進担当次長の役割等について、引き続き検討してまいります。
14	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	協働の取組推進担当次長	直接の対話から、市民ニーズを肌で感じることができ、また、やりようによっては、リニアに行政活動に取り入れることも可能。なによりも対話を続けることで、市民だけではなく職員の意識改革も図ることができる。このことを考えると、次長職だけが適任とは思いません。結局のところ、庁内にて担当部署との調整が必要になることは同じなのだから、課長職などもう少し幅広い役職で対応させてもよいのではないのでしょうか。	地域ごとのまちづくり計画に掲げる地域課題の解決に向けて、課題の本質を捉えた客観的な視点での助言・支援を行うため、市全体の経営を考慮しながら政策判断を行う幹部職であり行政経験が豊富な室長級職員を担当次長として配置している状況です。一方、地域との協働のまちづくりは室長級職員だけでなく、幅広い役職の職員が意識する必要があると考えており、室長級職員以外への意識啓発についても、引き続き検討してまいります。
15	Q2「対話」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	関係課	案件の数や内容、地域側との関係等によって負担感が変わってくると思います。すべての協働の取組推進担当次長に感謝します。	-
16	Q3「進捗管理」の仕組みについて	まちづくり協議会	意欲的に活動しても、どうしても進捗確認をすると「未着手」となる取り組みが出てくる。ボランティアとして活動しているが故に、「未着手」になってしまったことに強い責任を感じてしまう人がいる。そのような人もいるということを知って欲しい。進捗確認の予想もしなかった一面だと思う。	地域ごとのまちづくり計画については、地域の実情に応じて必要な見直しも行いながら、無理なく進めていただくことも大切だと考えています。市としましても、ご意見のような思いを感じられる方がおられることについて改めて認識し、計画を進めるにあたって、地域の方が少しでも意欲的に取り組んでいただけるような仕組みとなるよう、引き続き検討してまいります。

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
17	Q3「進捗管理」の仕組みについて	まちづくり協議会	進捗状況確認シートのお話のために、別途内部で確認の時間をとっている。項目が多岐にわたるので、進捗状況の判断に迷うこともある。お話を1日設けて、それで行政としてその後のフォローができるのか。また、どのようにフォローされるのか。	地域ごとのまちづくり計画は、市民の方自らが地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、目標や具体的な取組等を取りまとめた計画です。進捗管理においても、市民の皆様の視点で見た現状に基づいて評価していただくことで、市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりの推進に繋がっていきますので、ご負担をおかけしますが、各まち協において進捗管理をお願いしています。進捗確認のお話しい場合は、担当次長も出席いたしますので、判断に迷う部分がありましたら、適宜ご相談ください。
18	Q3「進捗管理」の仕組みについて	まちづくり協議会	「対話」「進捗管理」は昨年度から行っています。しかし、「進捗管理」は全然行っておりません。反省しています。2022年度、2023年度に取り上げたテーマについて「進捗管理」を今年度から行いたいと考えています。今回、令和3年7月付けの「地域ごとのまちづくり計画」を協働で推進するための「対話」と「進捗管理」の仕組みができました！を参考資料としていただきました。有り難うございました。	進捗確認シートを作成いただいていますので、「進捗管理」を実施していただいているものと認識しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
19	Q3「進捗管理」の仕組みについて	まちづくり協議会	当まち協の具体的な取組項目は82あります。ボランティア活動の中であまりにも項目が多く、本来市民サイドで手掛けるにはレベルが高く活動への大きな負担となっています。また、活動内容やまち協の規模からみても市からの補助金(助成金)は当まち協への助成は余りにも少なすぎますし、不公平感はすごく大きいと感じています。決して手を抜くことなどは考えていませんが、現実を直視すれば過大な要請事項となっていると感じています。また、3月末までの結果報告についても5月の総会などのスケジュールを考えると厳しいものがあります。本来は市がやるべきことを市民が代替していることもあり、負担感は大きいです。この負担感を払拭すべく市民生活に関わる根本問題は行政側で確りと受け止めて解決すべき方向を示していただ、それに市民(まち協など)が応えるといった立て付けにすべきであると思います。	地域ごとのまちづくり計画は、市民の方自らが地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、目標や具体的な取組等を取りまとめた計画です。進捗管理においても、市民の皆様の視点で見た現状に基づいて評価していただくことで、市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりの推進に繋がっていきますので、ご負担をおかけしますが、各まち協において「進捗確認シート」の作成をお願いいたします。取組項目が多岐にわたり、ご負担となっている場合は、地域の皆様で話し合っていたいた上で、必要に応じて具体的な取組の見直しも可能ですので、ご検討ください。進捗確認シートの提出スケジュールにつきましては、ご意見を踏まえ、検討いたします。

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
20	Q3「進捗管理」の仕組みについて	まちづくり協議会	<p>・進捗管理は誰のためにあるのでしょうか？市の担当者の自己満足でしかないのでは？</p> <p>・まちづくり計画を2年かけて作り、61項目を設定しましたが、今の状態では10年後何も達成できません。優先順位を決めて進めるやり方に転換すべきです。</p> <p>・今回のようなまちづくり計画作りに疑問があります。私は、ボトムアップではなく市がランドデザインをするのが本来のやり方ではないかと思います。川西市が羨ましいです。</p>	<p>・地域ごとのまちづくり計画は、市民の方自らが地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、目標や具体的な取組等を取りまとめた計画であるため、市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりの推進のためには、進捗管理においても、市民の皆様の視点で見た現状に基づいて評価していただくことが必要であると考えています。ご理解ご協力をお願いいたします。</p> <p>・「具体的な取り組み」に優先順位を決めて進めていただいで差し支えありません。まち協の皆さまで話し合い、ご検討ください。また、是非、担当次長にもご相談ください。</p> <p>・本市では、市の最上位の計画で令和3年度(2021年度)から10年間を取組期間とする「第6次宝塚市総合計画」を策定しており、本計画に沿って市民と行政で共にまちづくりを進めています。</p>
21	Q3「進捗管理」の仕組みについて	関係課	<p>対話を継続することは、地域課題の解決に向けたプロセスとして重要であることは認識していますが、内容によっては対話の終着点を見出すことが難しいこともあります。その終着点の折り合いを含めて対話により決めていくことになるのであらうと感じています。</p>	<p>ご意見のとおり、「具体的な取り組み」の内容によっては、「対話」で即座に解決につながらないものもあるかと存じます。</p> <p>市民と行政のそれぞれがお互いに出ることを提案し合いながら、少しでも「地域(まち)の将来像」及び「基本目標」の実現につながるように、対話を重ねていくことが大切だと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。</p>
22	Q4「進捗管理」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	<p>取組推進担当次長は、速やかに動いてくれてありがたい。ただ、こちらが、繋げてほしい担当部署との温度差を感じる。</p>	<p>対話の実施にあたって、ご意見のようなことを感じられましたら、どうぞ担当次長までご相談ください。</p>
23	Q4「進捗管理」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	<p>意見と言うより質問なんですけど、当まち協では、進捗確認シートを作成し、定例役員会に担当次長をお招きし説明する形を取っていますが、これで市民協働が期待している機能を果たしているのでしょうか。また担当次長もこれで満足とお考えでしょうか。</p>	<p>進捗管理における担当次長の役割は、まちづくり協議会が実施する進捗管理を行うための会議へ出席し、具体的な取り組みの進捗状況や次年度の優先順位の決定について、取組の実施や課題を解決する観点から助言や支援を行うことです。進捗状況の評価や次年度の取り組みを検討する中で判断に迷われる点等がございましたら、どうぞご遠慮なく担当次長へご相談いただけますと幸いです。</p>

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
24	Q4「進捗管理」への協働の取組推進担当次長の関わり方について	まちづくり協議会	<p>当コミュニティは「自治会連合体」機能を持ち、自治会間の情報交換、連携を強化しています。これによって、まちづくり計画で立てた具体的な取組を進めていきます。しかし、コミュニティ役員、各自治会長達の関心ごとは少子高齢化によってまちが停滞、衰退に向かっていることです。コロナ禍、各自治会とも会員減少は加速しています。2022年度は当地域11自治会中、1自治会が解散、自治会長のなり手は少なく、9自治会の会長が交代しました。こうした中でコミュニティ、自治会運営をどうしていくか。問題、課題は多い。なかなか大変です。以下も課題になります。</p> <p>◎中山五月台幼稚園、小学校は閉鎖されました。まちに若い世代の人達が住む条件は後退しました。こうした状況打開へ、市は保育所誘致、遠くなった公立幼稚園へ通うスクールバスを設けるなどの手を打ち、子育てがやりやすい、若い世代が引っ越してくる、魅力あるまちづくりを目指してくれますか。地域住民と協力して。</p> <p>◎中山台、五月台、桜台の3自治会が所有する自治会館「中山台会館」が老朽化しています。2015～2021年度にかけ、防水、外壁補修などで3自治会は合計1310万円を負担してきました。現在、2階の廊下天井は雨漏り状態、その補修に1000万円かかるかも知れないと業者に言われています。そんな費用は捻出できず、今は雨漏りをバケツで受けとめ、雨水が溜まったら捨てています。3自治会は、これ以上の補修費用に耐えかねます。天井は腐っており、このままですます朽ちていくでしょう。記録によると、中山台会館は1997(平成9)年に市から3自治会に無償譲渡されています。資産はなく、資力が乏しい自治会に、何故、譲渡されたのか疑問です。将来、老朽化した時のことなどは考えなかったのでしょうか。現在、3自治会の間では、市に返却するしかない。という話がでています。返却で出来ないなら自治会は解散するしかない、という声もあります。</p> <p>◎中山五月台にある宝塚東高校の裏側に小さな道があります。昔は、通行できましたが、今は閉鎖されています。しかし、よい散歩道、健康促進へ歩きたいという声が出ています。東高校生徒のマラソン通路にもなっていました。地域の皆で桜の植樹をし、春になるときれいです。この通路を通れるようにしてくれませんか。</p> <p>◎市は上記のような要望、課題解決の相談に乗ってくれますか。まちづくり計画の新たな目標に上記の件を取り上げ、その進捗管理に市の担当次長さんとはとりくんでいただけますか。</p>	<p>地域ごとのまちづくり計画の「具体的な取組み」は、おおむね5年間で実行するものとしてとりまとめているため、取組みの追加については、基本的には次の5年間の具体的な取組みを考える際に検討していただきたいと考えています。ただし、社会情勢の変化などに伴い、追加が必要であると地域が判断した場合、新規の取組みの追加を妨げるものではありませんので、必要があれば市民協働推進課にご相談ください。</p> <p>また、いただいた課題については、現計画に記載がない場合は、上記により追加したうえで、「具体的な取組み」の実行に向けて、「対話」「進捗管理」の仕組みに基づいてまち協と市との「対話」を行うことができます。課題が複雑で解決が難しい取組もあるかと存じますが、市民と行政の両者がお互いに出ることを提案し合いながら、少しでも「地域(まち)の将来像」及び「基本目標」の実現につながるように、対話を重ねていきたいと考えています。</p> <p>(「中山台会館」の老朽化については、自治会固有の課題ですので、個別に市民協働推進課にご相談ください。)</p>
25	Q5その他	まちづくり協議会	<p>進捗確認シートは簡便方式を教えてくださいました。しかし、総会資料に掲載するときは、簡便式でなく正式な全体が判る様式を使用するよう指導いただきました。簡便式はどのような場合に使用するのか教えてください。</p>	<p>一般家庭用の印刷機では「A3」の様式を扱えないので縮小をしてほしいという旨のご意見を受け、A4サイズでも印刷ができるように作成いたしました。総会資料に掲載する際にも、地域の中で合意を得ていただければ、A4サイズをご活用いただいて差し支えございません。誤解をお招きし、申し訳ございません。</p>

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
26	Q5その他	まちづくり協議会	<p>すでに何度も述べましたが、まち協への補助金(助成金)の配分金額が旧態依然であり、当校区では十分な活動が出来ないような状況であります。まち協の規模に応じた配分に修正して頂き、公平感のある補助金(助成金)に改めて頂く時期が来ています。又「宝梅ハウス」は未登記のプレハブ建物であり、有事の時の災害リスクや外付け階段がないため火災発生時には人命にも影響するような物騒な建物です。過酷な条件のもとで「まち協活動」をするには既に限界がきており、深刻な現状をどうするか検討願えればと思います。少なくとも、ボランティアの域を超越した活動をしているのが現状であります。</p>	<p>まちづくり協議会補助金については、世帯数に応じて4区分に分けて補助基準額を決めており、一定、まちづくり協議会の規模に応じた補助金としています。また、補助基準額の増額については、市の厳しい財政状況を踏まえると困難です。何卒ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>宝梅ハウスについては、県の県民交流広場事業補助金を活用し整備させていただいているところです。維持管理や老朽改修については、地域にご負担いただいておりますが、県に対して維持管理や老朽改修に対する支援の実施について要望してまいります。</p>
27	Q5その他	まちづくり協議会	<p>◎6年間、自治会長をしてきましたが、自治会連合体が役立つと思ったことはありませんでした。地域の自治会長達も同じの思いでいたようで皆さん、自治会連合体の会議には、誰もほぼ出ていません。しかし、自治会連合体機能は必要です。その機能が一番役立つのは近隣の自治会間の情報交換、共通の課題解決です。したがって、当コミュニティは自治会連合体機能を持ち、諸問題に取り組んできました。</p> <p>◎自治会間の交流、相互扶助は今のまちづくり協議会(コミュニティ)単位が一番望ましいと思います。市がリードして今の分裂状態の自治会連合体を20のまち協単位で再編成することを望みます。市は連合体組織の維持だけで動いている感じ?。価値観が多様化している今日、300近い自治会が再統合して何になる?何を指す?、展望はある?一本化したバラ色の未来がある? 全国の自治会連合の状況を見れば、時代は変わっていることが分かります。もうそろそろ、これまでとは異なる抜本的な手を打たないと。遅すぎるのではないのでしょうか。</p> <p>◎この期間、市民協働推進課の方から「最近の自治会はどうな感じ」「何か問題ある」「市は何に取り組んだらよいと思う」などを聞かれたことはございません。市民、自治会のニーズ調査をやっているの?。聞きたい質問には丁寧に答えていただいています。しかし、いわゆる“お役所”です。気軽に相談をすることは余りありません。市民交流部の今のような部屋の配置では、質問に答えてもらうと、すぐ帰れと言われているような感じがします。レイアウトを変えて、もっと気軽に相談できる「相談コーナー」などがあればと思います。</p> <p>◎最近の自治会長は1年交代が増えていきます。そういう自治会長向けの「自治会マニュアル」(基本部分と毎年更新する部分)を作成してくれませんか。ただし、市民協働推進課の目線ではなく、市民・自治会長目線のマニュアルを作っただけじゃダメですか。市のマニュアルがないので、当コミュニティのマニュアル的資料は作りました(市民協働推進課には送りました)。これに市レベルのこと(できれば国レベルも)が付け加わったらよいのですが。</p> <p>◎個人的な話になりますが、私は、この10年、繊維・アパレルの学会組織で、「メイドインジャパンの物づくり、海外展開を目指す」全国の会社経営者・後継者たちを集めた塾の幹事をしています。会議、講演会などを開催しますが、一番、皆さんが情報交換、懇意になるのは会議後の懇親会です。自由に交流できる立食でおこなっています。まち協代表者交流会は最近、随分とよくなってきました。さらに交流を深められる懇親会を考えられてもよいかと思えます。会議が終わり、はい、さようならでは余り親しくなれません。</p>	<p>自治会に関するご意見をはじめ、多くのご意見をいただきありがとうございます。自治会は市民にとって最も身近な地域の集まりであり、安全・安心に暮らせるまちづくりに向けて、様々な活動を担っていただいています。ご意見のような自治会マニュアルの作成等を含め、引き続き、持続可能なよりよい自治会活動の実現に向けて検討を進めてまいります。また、まちづくり協議会代表者交流会において、より出席者の皆様の親睦を深めるような工夫についても、皆様と一緒に検討したいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
28	Q5その他	まちづくり協議会	・宝塚市の将来展望が見えない。今の状態では宝塚市は活気のない、寂しい街になってしまいます。	本市では、市の最上位の計画で令和3年度(2021年度)から10年間を取組期間とする「第6次宝塚市総合計画」を策定しており、地域課題や市民ニーズに応じた市民主体のまちづくりを更に進めるため、この総合計画に「地域ごとのまちづくり計画」の「地域(まち)の将来像」と「基本目標」を位置付けています。より良いまちづくりのためには、地域の皆様のお力が必要ですので、引き続きご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
29	Q5その他	協働の取組推進担当次長	担当したまちづくり協議会の皆様には、大変お世話になりました。役員の皆様のご尽力が、今後とも、地域の発展に向けて、次世代にバトンタッチができることを期待しています。	計画見直し時から担当次長を担っていただき、ありがとうございました。後任の担当次長が計画の推進の支援に円滑に取り組めるよう努めていきます。
30	Q5その他	協働の取組推進担当次長	「担当次長は、何のためにまちづくり協議会に出席されているのか？」という質問が、協議会の中でなされました。協働の取組を推進していくために、課題解決のための助言・支援を行うために出席している旨説明をしましたが、まちづくり協議会のメンバーが徐々に更新される中で、仕組みの理解度が少々薄くなっているように思われます。人によっては、対市役所という姿勢で協議会に臨まれている方もいるように思われます。 また、協議会側からは、市の担当職員の認識として、まちづくり協議会についての認識は低く、自治会との協議を重んじているように思う旨発言がありました。 確かに、地元と協議を進める際に、自治会長を頼りに協議を進めることが、いまだ多くあるように思う指摘でありました。 恥ずかしながら、私自身もどちらに話をしよければいいのか明快な回答を持ち合わせておらず、事業概要により協議先を選択しているのが現実かと思われま す。 実際には問題となっていない場合も多いと思われませんが、場合によっては、面白く思わない団体もあるように推察します。 今一度、まちづくり協議会についてや、対話の仕組みなどについて、市民や市職員の双方に対し、啓発、研修を進めていく必要があるのではないかと思います。	ご意見のような啓発・研修の実施については重要であると考えています。まちづくり協議会や地域ごとのまちづくり計画、「対話」「進捗管理」の仕組み等について、市民や市職員の双方に継続的な啓発を進めていけるよう、取り組みを検討してまいります。

No	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
31	Q5その他	協働の取組推進担当次長	<p>担当のまちづくり協議会は、会長のもと対話だけにとどまらず、実際に取組をすすめられている。</p> <p>「エリアには22,000人の人が住んでおり、病院も多い。エディオン、ユニクロ、ニトリなど人気の店舗もあり、買い物にも便利。現役世代がまちづくり協議会で活躍できる土壌もある。エリアとして立派なコンパクトシティが形成できている。」と会長自身が言われていた。そうした自負が積極的な取組につながっていると感じている。</p> <p>協議会では、児童数が多い小学校区の課題などすでに市の担当部署と対話を進められていることも多くある。そのため、今年度、担当次長として対話をつなぐ場面はなかったが、地域のまつりなどは見学させていただいた。今後も顔の見える関係づくりは続けていきたい。</p>	<p>地域ごとのまちづくり計画を市民と行政が協働で推進していくためには、顔の見える関係づくりを通して、お互いの信頼関係を構築していくことも大切だと考えています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>
32	Q5その他	協働の取組推進担当次長	<p>地域ごとのまちづくり計画の進捗管理の会議では、地域の皆様と1年の活動を振り返りながら、実施に至る経過や取組の状況、今後の課題などを語り合っており、確認作業を行いました。報告書だけでは見えない活動内容の詳細を知ることができ、とても有意義な機会となりました。地域に行くこと、現場を見て対話を重ねていくことの大切さを実感しました。</p>	<p>「地域ごとのまちづくり計画」を市民と行政の「協働」で推進していくためには、両者が「対話」によって想いや考えを共有し合うことを基本として、お互いの信頼関係を構築していくことが大切だと考えています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>
33	Q5その他	協働の取組推進担当次長	<p>何度か進捗管理の会議に出席してきたが、協議会の役員の中で意見交換を聞くことが主になっていて、特に意見、助言を求められる場面も少なかった。</p>	<p>地域ごとのまちづくり計画を市民と行政が協働で推進するため、担当次長においては、必要に応じて助言や支援を行っていただくことはもちろん、計画の1年間の取組状況や成果、課題等を把握していただくことも大切であると考えています。</p>
34	Q5その他	協働の取組推進担当次長	<p>地域の方々との情報共有を重ねる中で、お互いの事情を理解し、よい関係が築けたと感じています。仕事以外でもコミュニケーションをとることができました。</p>	<p>地域ごとのまちづくり計画を市民と行政が協働で推進していくためには、ご意見のように、お互いの信頼関係を構築していくことが大切だと考えています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>